

## 資料4

### 地方創生関係交付金対象事業達成状況報告書

## 花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略 重要業績評価指標(KPI)の達成度評価について

### 1. 指標値に対する実績値の算出方法

$$\text{達成率(\%)} = \text{実績値} \div \text{目標値} \times 100$$

※小数点第一位を四捨五入願います。

### 2. 達成率の判定区分

a・・・100%以上    b・・・90%以上100%未満    c・・・90%未満

### 3. 達成度の判定

【A 達成できた】・・・KPIの達成率がすべて「a」

【B 概ね達成できた】・・・KPIの達成率の半数以上が「a」か「b」

【C やや達成できなかった】・・・KPIの達成率の半数未満が「a」か「b」

【D 達成できなかった】・・・KPIの達成率のすべてが「c」

## 実績値に対する評価

## 地方創生関係交付金対象事業達成状況報告書

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④ 事業実績(H30)	⑤ 実績額(H30) 単位:円	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)(H30)					⑦ 達成状況(H30)					担当課		
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月	実績値	達成率	判定	達成度	実績値に対する評価		事業の評価	
1	推進	地域再生スモールビジネス創出事業 (定住推進課、商工労政課、観光課、都市政策課)	<p>(背景)地方における消費活動の「マス」をターゲットにする大資本事業だけに依存するのではなく、小さくても地域資源循環を実現する事業や特定少数を相手にした事業を育成していく必要がある。</p> <p>(事業概要)大資本や大企業では拾いきれないニーズに対応する「スモールビジネス」を地域の新しい担い手と一緒に増やし、地域資金の域内循環を高めるため、スモールビジネスの創出について、4つの切り口から事業を行う。</p> <p>(具体的な取組)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>移住定住の推進と6次化の推進を図るための実践型インターンシップの実施</li> <li>地域の観光の強化と域外に流出する消費の域内化にむけた体験型観光推進事業補助</li> <li>まちなか企業を支援するためのリノベーションスクールの開催</li> <li>女性の活躍の増進を図るためのスモールビジネス創出支援ワークショップ・講座の開催</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>実践型インターンシップの実施 インターンシップ受入企業 5社 参加者9人 事業費 5,859,400円</li> <li>地域創業実践推進事業 無料体験ワークショップ1回 参加者19名 有料5回連続講座実施 参加者13名 事業費 1,416,726円</li> <li>体験型観光推進事業 事業者数 12事業者 体験者数 5,568人 事業費 570,080円</li> <li>リノベーションスクール開催 開催回数 9月1回、11月3回 参加者 3ユニット計19人 シンポジウム参加者 296人 事業費 7,996,480円</li> </ol>	12,000,000	指標①	スモールビジネス リピーター数	0	3,500	人/年	H31.3	1,323	38%	c		(評価事業No.1-2)	(評価事業No.1-1~1-4)	定住推進課 商工労政課 観光課 都市政策課
指標②	スモールビジネスを創業・起業した事業者数(個人事業も含む)(累計)	0	80	事業者	H31.3	37	46%	c	C	(評価事業No.1-2,1-3,1-4)								
指標③	売上	0	42,000	千円	H31.3	38,286	91%	c	(評価事業No.1-2,1-4)									
1-1	推進	地域再生スモールビジネス創出事業 (定住推進課、商工労政課、観光課、都市政策課)	<p>(背景)就職活動に際し、市内にどのような事業所があるか知らない学生が多い状況にある。</p> <p>(事業概要)移住定住の推進と6次化の推進を図るための実践型インターンシップの実施</p> <p>(具体的な事業内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ開催に係る大学授業での周知</li> <li>学生への個別相談会の開催</li> <li>インターンシップ受入企業の調整</li> <li>インターンシップに参加した学生への交通費支援(交付金充当外)</li> </ul>	<p>○実践型インターンシップの実施(H30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学内での周知:延べ22回、1,612名へ周知</li> <li>個別相談会の開催:参加者50名</li> <li>インターンシップ受入企業 5社 参加者9人</li> <li>インターンシップに参加した学生への交通費支援件数 25</li> </ul>	5,859,400	指標①									(事業実施結果)当初は3か月から半年程度の期間で設計したが、参加者確保が難航したため、1か月~2か月のインターンシップに再設計の上、学生へ周知・募集を行った結果、9名の学生がインターンシップに参加したが、市内事業所への就業者はいなかった。	商工労政課		
指標②										(実施結果の分析) ・全国的に売り手市場で首都圏等の給与水準の高い企業に就職しやすいこと、様々な企業でインターンシップを実施していることから、長期間の滞在を要する市内企業でのインターンシップは、市内企業への高い関心を寄せる学生以外には、選択されづらかったと考えられる。								
指標③										(成果)実践型インターンシップを通じて、地域の企業について、より深く知りたいと考える学生も一定数いることが分かった。								
1-2	推進	地域再生スモールビジネス創出事業 (商工労政課、観光課、都市政策課)	<p>(背景)団体旅行から個人旅行へ旅行形態のシフトが進むことで旅行者ニーズの多様化が進み、体験型観光の需要はさらに増している。</p> <p>(事業概要)地域の観光の強化と域外に流出する消費の域内化にむけた体験型観光推進事業補助</p> <p>(具体的な取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度に実施した「広域観光推進事業(加速化交付金活用)」により実施した補助事業のうち、以下の2事業を実施。</li> <li>(1)新たに体験型事業を実施する事業者が、旅行者、宿泊客、市民が体験したくなる興味深い体験型事業を開発・改良するための事業</li> <li>(2)外国人モニター等を活用し、海外個人旅行者に対応する体験型事業の調査、評価並びに海外へ観光情報を発信するための事業</li> </ul>	<p>○体験型観光推進事業(H28-H30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者数 17事業者</li> <li>体験型事業の開発・改良事業 H28:10事業者 H29:4事業者 H30:3事業者</li> <li>体験者数 H30:5,568人</li> </ul>	570,080	指標①	スモールビジネス リピーター数(単年)	0	3,500	人/年	H31.3	1,323	38%		(KPIの目標値達成状況) 達成できなかった。	(事業実施結果)平成30年度には、3事業者が体験メニュー(農業体験で収穫した野菜でバーベキュー体験、郷土料理や地産地消費理を伝える料理教室の開催、電動ろくろを使った陶芸体験)を改良、開発した。	観光課	
指標②	スモールビジネスを創業・起業した事業者数(個人事業も含む)(累計)	0	30	事業者	H31.3	17	57%		(KPIの目標値達成状況) 達成できなかった。	(KPIの達成/未達成要因) 体験型観光事業の補助決定に至るまでに、ニーズやターゲットを意識した事業構築のサポートや事業内容の確認が不足していたため。								
指標③	売上(単年) ※体験メニューの実施により発生した売上	0	10,000	千円	H31.3	6,886	69%		(KPIの目標値達成状況) 達成できなかった。	(KPIの達成/未達成要因) 体験型観光事業の補助決定に至るまでに、ニーズやターゲットを意識した事業構築のサポートや事業内容の確認が不足していたため。								



No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④ 事業実績(H30)	⑤ 実績額(H30) 単位:円	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)(H30)					⑦ 達成状況(H30)					担当課			
						指標		指標値	目標値	単位	目標年月	実績値	達成率	判定	達成度		実績値に対する評価		事業の評価
						指標①	指標②												
3-1	推進	いわてワインヒルズ推進事業 (岩手県、定住推進課、大迫総合支所地域振興課)	<p><b>(背景)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「日本ワイン」の原料となる国産ぶどうの確保に向けた動きが大手を中心に活発化している。</li> <li>県内においてU・ターン者によるワイナリーの新規開業が増加する見込みである。</li> </ul> <p><b>(事業概要)</b> ぶどう農家の生産意欲の向上や、新規就農を含めた担い手の確保、ワイナリー新規参入者の発掘・人材の確保・事業化までの支援等を通じて、醸造用ぶどうの一層の生産拡大を進めるとともに、地域が一体となった特色ある高品質なワインを生み出す取組を推進し、ワイン産業を核とした、中山間地域等の活性化を図る。</p> <p>また、花巻地域と周辺市町村の観光や食などの地域資源と併せて、県産ワインの魅力を県内外にPRすることで、ワイン産地としての認定度向上を図る。</p> <p><b>(具体的な取組)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>醸造技術習得支援事業補助金の交付</li> <li>各種セミナーの開催</li> <li>ワイナリー整備等事業補助金の交付</li> <li>花巻ワインプロモーションイベントの開催</li> <li>「ワインツーリズムいわて2018」の実施</li> </ul>	<p>◆花巻クラフトワイン・シードルブランド化推進事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>醸造技術習得支援事業補助金 のべ5名研修</li> <li>各種セミナー 4回開催 のべ29名参加</li> <li>ワイナリー整備等事業補助金 計10件</li> <li>花巻ワインプロモーションイベントの開催 都内2日間 参加者のべ47名</li> <li>「ワインツーリズムいわて2018」の実施 参加者数205名</li> </ol>	21,956,669 (花巻市)	指標①	県産ワインの製成数量	0	-	kl	H31.3	-	-	-		(県の指標であるため評価せず) →市町村別のワイン製成数量は把握できない	<p><b>(事業実施結果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワインやシードル等の醸造に取り組むことができる環境が整備された。</li> <li>参加者の約7割が県外の方であった「ワインツーリズム」や首都圏でのプロモーションイベントは、参加者に好評であった。</li> </ul> <p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「花巻クラフトワイン・シードル特区」を活用した新規ワイナリーが平成31年4月に設立された。</li> <li>委託醸造を経て数年後にワイナリーの開設を予定している事業者が複数現れた。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワイナリーの開設や新規ワイナリーの経営安定化までの持続的な支援が必要である。</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワイン産地としての認知度向上と首都圏での販路開拓のため、引き続きワイナリーと連携し、「ワインツーリズム」及び首都圏でのプロモーションイベントを開催する。</li> </ul>	定住推進課	
						指標②	県内新設ワイナリー数	0	-	件	H31.3	-	-	-		(県の指標であるため評価せず) ※参考:花巻市内:1件(アールペイザンワイナリー)			
						指標③													
						指標④													
3-2	推進	いわてワインヒルズ推進事業 (岩手県、定住推進課、大迫総合支所地域振興課)	<p><b>(背景)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「日本ワイン」の原料となる国産ぶどうの確保に向けた動きが大手を中心に活発化している。</li> <li>県内においてU・ターン者によるワイナリーの新規開業が増加する見込みである。</li> </ul> <p><b>(事業概要)</b> ぶどう農家の生産意欲の向上や、新規就農を含めた担い手の確保、ワイナリー新規参入者の発掘・人材の確保・事業化までの支援等を通じて、醸造用ぶどうの一層の生産拡大を進めるとともに、地域が一体となった特色ある高品質なワインを生み出す取組を推進し、ワイン産業を核とした、中山間地域等の活性化を図る。</p> <p>また、花巻地域と周辺市町村の観光や食などの地域資源と併せて、県産ワインの魅力を県内外にPRすることで、ワイン産地としての認定度向上を図る。</p> <p><b>(具体的な取組)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新農業人フェアへの参加(大迫の新規ぶどう栽培者の募集に関するPR活動)</li> <li>葡萄が丘農業研究所が開講しているぶどうに興味のある方を対象とした「ぶどう塾」の塾生への実技や座学の指導</li> <li>関係機関で組織する就農支援コーディネーターによる就農までに必要な農地の斡旋や定住支援</li> </ul>	<p>◆担い手育成支援事業</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>新規就農者に対する技術指導等を行う就農者技術支援員の配置 1名</li> <li>ぶどう栽培継続困難な園地の一時的管理補助 3戸 481,353円</li> <li>大迫ぶどう産業振興協議会への補助 1,700,000円</li> </ol>	21,956,669 (花巻市)	指標①										(県の指標であるため評価せず)	<p><b>(事業実施結果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規ぶどう栽培の希望者に対し、就農支援コーディネーターによる情報提供、技術指導、農地斡旋、定住支援までの一貫した就農支援を行うことが可能になった。</li> <li>既存農地の一部が維持管理された。</li> </ul> <p><b>(成果)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規ぶどう栽培就農者が目標値を超えて増加した。</li> <li>新規ぶどう栽培面積は目標には届かなかったが、確実に増加している。</li> </ul> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規ぶどう栽培就農者に対する農地取得や設備投資への支援が必要である。</li> <li>高齢化等により、ぶどう栽培の継続が困難な園地を廃園させないなど、ぶどう栽培希望者が新規就農を希望するタイミングで、すぐに入植できる環境整備が必要である。</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就農支援コーディネーターが農地情報を詳細に把握し、新規ぶどう栽培希望者に対して農地の斡旋をスムーズに行うほか、醸造用ぶどうの垣根新設に要する初期投資費用を軽減させるための補助制度を設け、更に面積拡大を図る。</li> <li>既存園地が新規ぶどう栽培希望者に継承されるなど、園地の維持を促進する支援を行う。</li> </ul>	大迫総合支所地域振興課	
						指標②									(県の指標であるため評価せず)				
						指標③	花巻市のぶどう栽培面積	0	3.3	ha	H31.3	2	61%	c	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>達成できなかった。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>事業者が、農地を新規に取得する計画であったが、一部について水捌けが良くない農地であったこと、醸造用ぶどうの垣根の新設に要する初期投資費用が計画より過大となり、自己資金の目的が立たなくなったことにより、農地の取得を見送ったため。</p>				
						指標④	花巻市の新規ぶどう栽培就農者数	0	2	人	H31.3	4	200%	a	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>達成した。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>新規のぶどう栽培希望者(4名)に対する、葡萄が丘農業研究所によるぶどう栽培技術の指導や、関係機関で組織する就農支援コーディネーターによる必要な農地の斡旋や定住支援などを継続してきた結果、今年度に新規就農する目的を立ることができたため。</p>				

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④ 事業実績(H30)	⑤ 実績額(H30) 単位:円	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)(H30)					⑦ 達成状況(H30)					担当課		
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月	実績値	達成率	判定	達成度	実績値に対する評価		事業の評価	
4	加速化	サービス業生産性向上事業 (商工労政課)	<p><b>(背景)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>花巻市の被雇用者約4万人のうち、約4割はサービス従事者であり、中でも宿泊業や小売業、飲食業は大きな割合を占める。</li> <li>サービス業の生産性は、製造業全般に比べて大きく劣っている。</li> </ul> <p><b>(事業概要)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域で大きな雇用をもつサービス業(旅館、飲食、小売など)に、ものづくり産業のカイゼンの専門家を一事業所ごと(公募)に投入し、継続指導による職場の効率化を進め、サービス業の生産性向上を図る。</li> <li>事業者における具体的なカイゼンに係る備品購入等へ補助する。</li> </ul> <p>(注)H28の交付金活用後、H29以降は市単独事業(企業競争力強化支援事業補助金:カイゼン)により実施している。また、H30より、備品購入等への補助は終了しているほか、支援業種をサービス業に限定せず実施。</p>	<p>(H30)2件</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>従業員間の無線連絡体制の環境整備(旅館業)</li> <li>作業工程の改善(建設業※)</li> </ul> <p>※本事業の対象業種はサービス業であるため、KPIに計上する実績は1件とする。</p>	185,000	指標①	カイゼン導入事業所数(累計)	0	20	事業所	H31.3	11	55%	c	D	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>達成できなかった。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>「カイゼン」はコスト削減により、長期的に業績向上を見込むものだが、補助金を活用する市内事業者の多くは、売上向上の取組に力を入れており、カイゼン導入による業績改善に意識が向いていないことが原因と考えられる。</p>	<p><b>(事業実施結果)</b>平成30年度より企業競争力強化支援事業補助金へ補助メニューを移行し、市HP掲載や産業施策の紹介パンフレットを事業所に配布した結果、今年度1事業者(旅館業:温泉宿)が「カイゼン」に取り組んだ。</p> <p><b>(成果)</b>温泉宿において従業員間の無線連絡体制が構築され、従来、各従業員がポケベルを携帯し、従業員間の連絡はポケベル→内線電話→フロントとなっており、時間を要していたが、直接従業員間で連絡をとれるようになり、作業効率が大幅に向上した。</p>	商工労政課
指標②	カイゼンを導入した事業所における作業短縮時間の割合	0	10	%	H31.3	0	0%	c	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>達成できなかった。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>H30の補助金採択事業においては、事業所の作業効率は上がったものの、作業短縮時間の把握ができなかったため。</p>	<p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業者に対する「カイゼン」の成功事例の紹介や補助制度の周知が必要である。</li> <li>業種に応じた、「カイゼン」による業績への影響を可視化できる指標設定が必要である。</li> </ul> <p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関や産業支援機関等と、「カイゼン」の利点や補助金制度に関する情報共有を行い、相談を行う事業者への周知を図る。</li> <li>補助事業実施時に、「カイゼン」の成果を測定する方法について、事業者と事前協議する。</li> </ul>								
6	加速化	広域観光推進事業 (観光課)	<p><b>(背景)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「宿泊」は地方の観光収入において約3割から4割を占める大きな収入源となっている。</li> <li>花巻市内の宿泊にかかる客室稼働率は閑散期50%、繁忙期は85%となり、収益悪化の原因となっている。</li> </ul> <p><b>(事業概要)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旅館、農家、医療法人、ツーリズム系NPOなどの体験型事業者と旅行代理店による民間コンソーシアムにより地域アクティビティを整備し、地方観光を強化する。花巻のみでは限界が生じるため、遠野市、平泉町との広域連携を進める。</li> <li>広域的なインバウンドの対応や、DMO化を見据えたFS調査(新規事業やプロジェクトの実現可能性、実行可能性等を検証する調査。Feasibility Studyの略。)を行う。</li> </ul> <p><b>(具体的な取組)</b></p> <p>(1)①-③の事業実施に係る補助金交付</p> <p>①新たに体験型事業を実施する事業者が、旅行者、宿泊客、市民が体験したくなる興味深い体験型事業を開発・改良するための事業</p> <p>②宿泊客が気軽に予約できるアクティビティと客を結ぶ予約システムの開発</p> <p>③外国人モニター等を活用し、海外個人旅行者に対応する体験型事業の調査、評価のための事業、海外へ観光情報を発信するための事業</p> <p>(2)(1)を軸としたDMO・インバウンド広域体制のFS調査</p>	<p>(H28-H30※)</p> <p>(1)①-③の事業実施に係る補助金交付実績</p> <p>①新たに体験型事業を実施する事業者が、旅行者、宿泊客、市民が体験したくなる興味深い体験型事業を開発・改良するための事業</p> <p>H28:10件 H29:4件 H30:3件 計17件</p> <p>②宿泊客が気軽に予約できるアクティビティと客を結ぶ予約システムの開発</p> <p>H28:2件 H29:1件(H28の継続事業) 計3件</p> <p>③外国人モニター等を活用し、海外個人旅行者に対応する体験型事業の調査、評価するための事業、海外へ観光情報を発信するための事業</p> <p>H28:1件 H29:0件 H30:0件 計1件</p> <p>(2)(1)を軸としたDMO・インバウンド広域体制のFS調査(注)(H28委託事業)</p> <p>H28:1件</p> <p>※平成29年度、平成30年度は、地方創生推進交付金(スモールビジネス推進事業:1-3)を活用して同事業を実施し、令和元年度以降は市単独事業(体験型観光推進事業交付金)として①、③の2事業を実施する事業者に、補助金を交付。</p>	570,080	指標①	当該体験型事業への総参加者数(単年)	0	2,500	人	H32.3	5,597	224%	a	—	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>現時点で達成した。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>H30の補助金採択事業においては、事業所の作業効率は上がったものの、作業短縮時間の把握ができなかったため。</p>	<p><b>(事業実施結果)</b>平成30年度は、新たに3事業者が体験メニューの改良(農業体験で収穫した野菜でのバーベキュー体験、郷土料理や地産地消料理を伝える料理教室の開催、電動ろくろを使った陶芸体験)等を行い、拡充された。</p>	観光課
指標②	体験型事業数(累計) ※補助金の交付により開発・改良並びに実施された事業(左記①②の事業数)	0	20	事業	H32.3	17	85%	c	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>現時点で達成できていないが、達成を目指す。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>市HPでの補助金制度の周知に加え、花巻観光協会等を通じ体験事業に取り組む意欲のある事業者への働きかけを行い、最終年度(令和元年度)での目標達成を目指す。</p>	<p><b>(成果)</b>体験型観光事業を実施する事業者数が増加し、体験者数を大きく伸ばすことにつながった。</p> <p><b>(課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験型事業の開発・改良が持続的に行われる必要がある。</li> <li>「いわてのあそび」へのアクティビティ登録について、事業者の理解を得ることが難しい状況であることから、連携による体験型観光を行う強みを明確にする必要がある。</li> </ul>								
指標③	連携自治体数(累計) ※体験型観光予約サイト「いわてのあそび」に登録した事業者が所在する自治体数	0	6	自治体	H32.3	3	50%	c	<p><b>(KPIの目標値達成状況)</b></p> <p>現時点で達成されておらず、達成は困難。</p> <p><b>(KPIの達成/未達成要因)</b></p> <p>本事業で作成された体験型観光予約サイト「いわてのあそび」への体験型事業者の登録により連携を図ることとし、県内市町村の事業者へ呼びかけたが、事業者の同意が得られず、市内事業者以外の登録が進まないため。</p>	<p><b>(今後の方向性)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験型事業の開発・改良への支援を継続する。</li> <li>近隣市町村の観光資源を組み合わせた産業観光(体験型観光)の紹介動画作成等を通じたPRの強化等にも取り組み、近隣市町村の連携による広域的な誘客活動を進める。</li> </ul>								

No.	① 交付金の種類	② 交付対象事業の名称	③ 事業内容	④ 事業実績(H30)	⑤ 実績額(H30) 単位:円	⑥ 本事業における重要業績評価指標(KPI)(H30)					⑦ 達成状況(H30)					担当課			
						指標					実績値	達成率	判定	達成度	実績値に対する評価		事業の評価		
						指標	指標値	目標値	単位	目標年月									
8	拠点整備	オリンピックレガシーを生かした「田瀬湖ポート場」環境整備事業(スポーツ振興課)	<p>(背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年の東京オリンピック日本代表の事前合宿地として内定している。</li> <li>・毎年大学や高校等の合宿地として活用されているが、宿泊施設までの距離が遠く、合宿地としての利用が伸び悩んでいる。</li> </ul> <p>(事業概要) ヨットやカヌーなど市民のウォータースポーツに触れ合う場の創出のため、東和B&amp;G海洋センター及び田瀬湖ポート場の管理運営を行う。</p> <p>(具体的な取組:H29に事業完了)</p> <p>(1) 建築基準法及び消防法上の用途変更(簡易宿泊所)に伴う改修</p> <p>(2) 合宿所として機能向上に係る改修</p> <p>① エアコン設置</p> <p>② 畳の表替え</p> <p>③ タイルカーペット敷き</p> <p>④ 浴室設置</p> <p>⑤ ガス給湯設備設置(既存重油ボイラー廃棄)</p> <p>⑥ トイレ洋式化</p> <p>⑦ 洗濯室設置(既存ボイラー室のボイラーを撤去し、洗濯室化)</p> <p>⑧ 取り付け道路アスファルト舗装</p>	<p>H29.5 事業開始</p> <p>H30.3 事業完了</p> <p>○用途変更確認申請・艇庫改修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工事設計業務委託料 2,592,000円</li> <li>・艇庫改修工事管理業務委託料 864,000円</li> <li>・電気工事 9,936,000円</li> <li>・機械工事 24,300,000円</li> <li>・建設工事 34,776,000円</li> </ul>		指標①	観光客入込数(万人)	217.7	218.4	万人	H31.3	201.3	92%	b	B	(KPIの目標値達成状況) 達成できなかった。	(KPIの達成/未達成要因) 国内観光客数が減少し、市内観光客入込数も前年比▲6%と減少したため。	(事業実施結果) 全国大会の受け入れや合宿の誘致が成功した。	
						指標②	東和B&G海洋センター利用者数(人)	8,800	9,100	人	H31.3	13,169	145%	a		(KPIの目標値達成状況) 達成した。	(KPIの達成/未達成要因) 本会場を拠点とした全国大会の誘致に成功するとともに、簡易宿所営業の手続きを行ったことで、合宿での利用者数も増加したため。		(成果) 大会参加者及び合宿参加者の増加により、施設利用者数を大幅に伸ばすことができた。
						指標③	施設利用収入(千円)	400	500	千円	H31.3	433	87%	c		(KPIの目標値達成状況) 達成できなかった。	(KPIの達成/未達成要因) 誘致した大会や合宿の中、使用料の減免対象となる主催事業や後援事業として開催したものがあつたため。		(課題) 施設利用者及び施設利用収入の一層の増加を図る必要がある。
9	拠点整備	イーハトーブの四季を彩る「宮沢賢治童話村野外ステージ」整備事業(賢治まちづくり課)	<p>(背景)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治童話村の施設の一部である「野外ステージ」は6,000㎡の芝生広場に面し、周りを森林に囲まれ自然を体感できる場所であり、宮沢賢治関連イベントをはじめとする各種イベントで利用されている。</li> <li>・大規模イベント開催時には、仮設ステージの設置が必須となり、開催経費が増大するため、開催地として選択されにくい。</li> </ul> <p>(事業概要) 野外ステージの改修</p> <p>(具体的な取組:H29に事業完了)</p> <p>野外ステージを、荒天時の緊急退避場所として活用したり、屋根への音響設備の設置、大型スクリーンの設置が可能となるように改修する。</p>	<p>H29.11 事業開始</p> <p>H30.3 事業完了</p> <p>野外ステージの概要</p> <p>所在地 宮沢賢治童話村(花巻市高松第26地割地内)</p> <p>構造 鉄骨造</p> <p>屋根 新設鉄骨柱4本、アルミたて樋付アーチ型</p> <p>軒裏 長尺ガルバリウムカラー鉄板葺き</p> <p>軒高 ステンレス加工張(1.5mm)</p> <p>延床面積 7.4m(建物最高点9.3m)</p> <p>98㎡</p> <p>床材質 木材(キシラデコール塗り仕上げ)</p>		指標①	イーハトーブフェスティバル来場者数(人/日)	2,100	2,200	人/日	H31.3	2,450	111%	a	B	(KPIの目標値達成状況) 達成した。	(KPIの達成/未達成要因) 野外ステージの改修によるイベント内容の充実とイベントの定着が進んだため。	(事業実施結果) 改修によってステージ運営がしやすくなり、多様なイベント等への活用が可能になった。	
						指標②	観光客入込数(万人)	222	222.1	万人	H31.3	201.3	91%	b		(KPIの目標値達成状況) 達成できなかった。	(KPIの達成/未達成要因) 国内観光客数の減少により、市内の観光客入込数が減少傾向(前年比▲6%)となったため。	(成果) 民間主催イベントでの活用も増加しており、来場者の増加につながっている。観光客入込数が減少する中、改修したステージのある宮沢賢治童話村とその周辺文化施設(記念館、イーハトーブ館、博物館)の入込客数は約3%増加している。	
																	(課題) インバウンド客を含めた一層の集客を図るための効果的な情報発信が必要である。	(今後の方向性) 多様な活用がなされるよう、ホームページやSNSを活用した効果的な周知方法などを検討していく。	賢治まちづくり課